

動物追加調査結果

令和 2 年 11 月 江南市・尾張北部環境組合

環境影響評価準備書（以下「準備書」という）では、猛禽類については 1 営巣期の調査結果、ホンドキツネについては令和元年 12 月から 4 月までの調査結果に基づき予測及び評価を実施した。

その後の状況を確認するため、追加調査を実施したことから、その結果を以下のとおりまとめた。

1 猛禽類

(1) 現地調査

①調査期間

追加調査期間は、表 1 に示すとおりである。

表1 調査期間

調査期間	調査実施日
2 営巣期	令和 2 年 1 月 30 日(木)、31 日(金)
	令和 2 年 2 月 24 日(月)、25 日(火)
	令和 2 年 3 月 19 日(木)、20 日(金)
	令和 2 年 4 月 16 日(木)、17 日(金)
	令和 2 年 5 月 15 日(金)、16 日(土)
	令和 2 年 6 月 21 日(日)、22 日(月)
	令和 2 年 7 月 16 日(木)、17 日(金)
繁殖状況 調査	令和 2 年 6 月 27 日 (土)
	令和 2 年 7 月 21 日 (火)

②調査地点

調査地点は、「準備書 8.9 動物」と同様とした。

③調査方法

調査方法は、「準備書 8.9 動物」と同様とした。

④調査結果

追加調査で確認された猛禽類の合計は、2 目 3 科 7 種である。

オオタカ以外の種は繁殖期を通して確認されず、繁殖を示唆する行動等も確認されなかった。

表2 猛禽類の確認例数

No	目名	科名	種名	選定基準					令和 2 年						
				①	②	③	④	⑤	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	繁：NT		2	1	2	1			
2		タカ	ハイタカ			NT		準	9	8	7	3			
3			オオタカ			NT	繁：NT/越：NT	準	9	29	22	8	11	31	31
4			サシバ			VU	繁：EN/通：NT	準			1	4	3		
5			ノスリ						6	3	2				1
6	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ								2	2			
7			ハヤブサ		国内	VU	繁：VU/越：NT	準	2			5			2
計	2 目	3 科	7 種		1 種	5 種	4 種	4 種	5 種	4 種	6 種	6 種	2 種	1 種	3 種

注) 種名及び配列は「日本鳥類目録第 7 版」(平成 24 年 日本鳥学会)に従った。

## (2) 行動圏解析結果

平成 31 年 3 月から令和 2 年 7 月までの調査結果を踏まえたオオタカの行動圏解析の結果は表 3 に示すとおりである。

「猛禽類保護の進め方（改訂版）」（平成 24 年 12 月 環境省）によると、行動圏解析は、頻度解析ではなく巣の位置を基準に行うこととしており、巣の位置は 2 営巣期目も 1 営巣期目とほぼ変わっていないため、行動圏解析の結果は準備書と同様の結果である。

表3 行動圏解析結果（2 営巣期分）

項目	面積等
高利用域の面積	820.2ha
うち、事業実施区域の面積	約 3ha
主要な採食地面積	687.0ha
営巣中心域の面積	4.5ha
事業による高利用域の改変率	0.37%

## 2 ホンドキツネ

### (1) 現地調査

#### ①調査期間

追加調査期間は、表 4 に示すとおりである。

表4 調査期間

調査期間
令和 2 年 5 月 20 日(水)、21 日(木)
令和 2 年 6 月 24 日(水)～26 日(金)
令和 2 年 7 月 18 日(土)～22 日(水)
令和 2 年 8 月 18 日(火)

注) 調査期間は、データの回収及びメディアや機器の交換、現場の状況を確認した期間を示している。

#### ②調査地点

調査地点は、「準備書 8.9 動物」と同様の地点を基本とし、調査実施可能な地点を設定した。

#### ③調査方法

調査方法は、「準備書 8.9 動物」と同様とした。

#### ④調査結果

##### a) ホンドキツネの行動範囲

調査日数（自動撮影法）は、表 5 に示すとおりである。また、令和元年 12 月から令和 2 年 8 月までの確認状況は、図 1 のとおりである。

設置した自動撮影カメラの全ての地点で確認され、1 日あたりの確認回数は、営巣地がある地点 1 が突出して多かった（図 1 参照）。

行動範囲としては、河川敷を東西に利用していることが明らかになり、営巣地から距離が大きくなるほど、1 日あたりの確認回数は減少した。また、住宅等人為的な影響が大きくなる事業実施区域より南側の地点でも確認された。

目撃法及びフィールドサイン法では、巣穴と、その周辺で足跡が確認された。

表 5 ホンドキツネ（自動撮影法）の調査日数

調査期間 地点番号	令和 2 年			
	4 月 19 日 ～5 月 20 日	5 月 20 日 ～6 月 26 日	6 月 26 日 ～7 月 18 日	7 月 18 日 ～8 月 18 日
1	31	37	23	30
2 注 1)	—	—	—	—
3 注 1)	—	—	—	—
4	0	35	2	31
5	31	37	35	31
6 注 2)	—	—	—	—
7	31	37	0	31
8	0	37	1	31
9	31	37	0	31
10	0	37	3	31
11	0	37	3	31
12	0	37	5	31

注 1) 動物四季調査での調査地点であり、ホンドキツネの行動範囲を把握するための地点としては十分な情報が取得できたことから、追加調査では調査対象外とした。

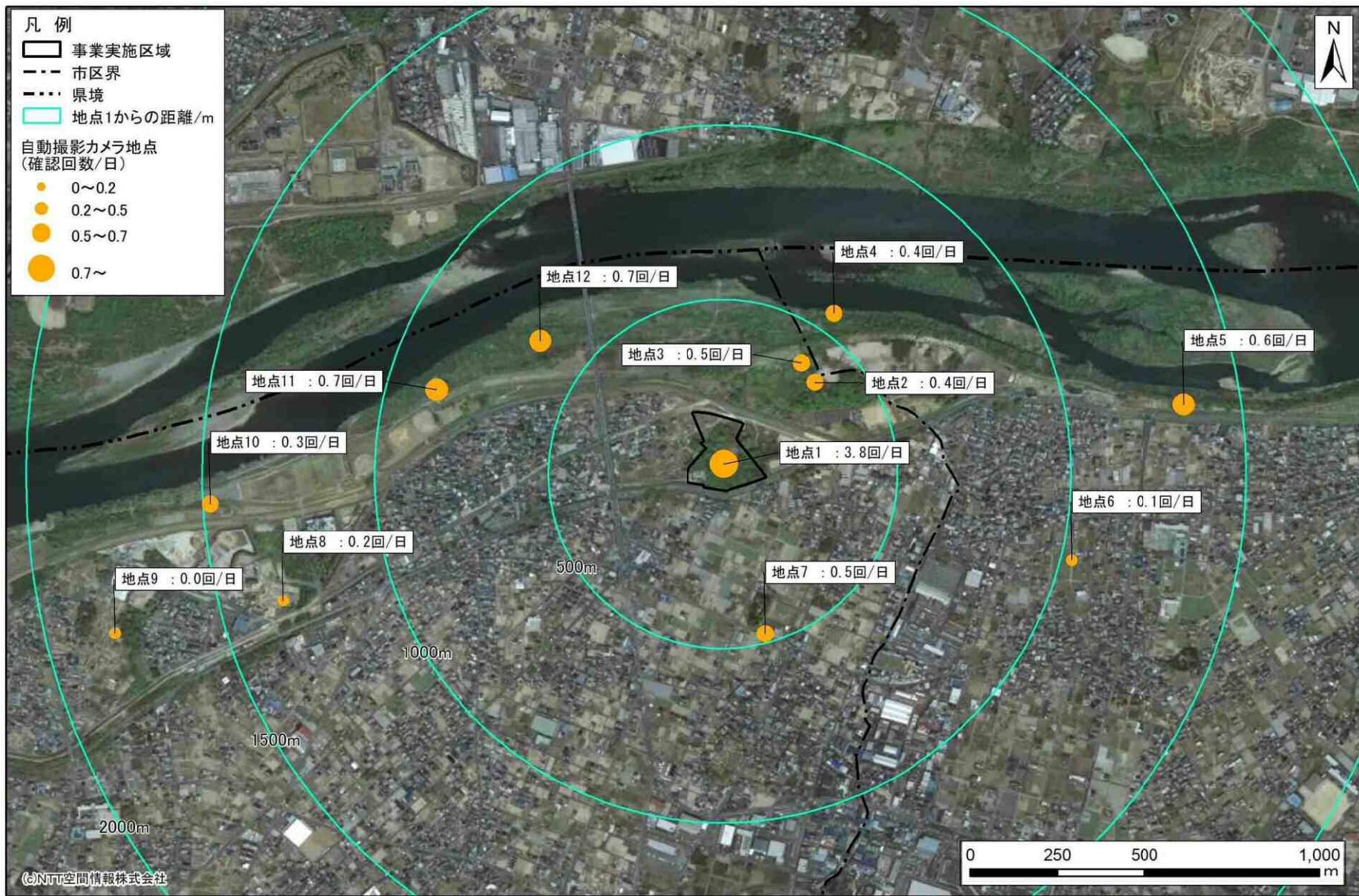
注 2) 設置箇所状況の変化等により、追加調査では調査対象外とした。

注 3) 調査日数は、調査期間から機器トラブル等によるデータ欠損日を引いた日数を示す。

b) 餌動物の行動範囲

餌動物の行動範囲については、準備書に記載した内容と大きく変化はなかった。

図1 自動撮影法によるホンドキツネの確認状況 (R1. 12~R2. 8: 観察日数換算値)



c) 営巣地となる候補地点の環境条件

営巣地となる候補地点を整理するにあたり、耕作地である地点 6、7 を除いた。また、追加調査において、地点 10 や地点 12 はいずれも大規模な出水時（追加調査時：7 月）に自動撮影カメラが水没した。

以上のことも踏まえた候補地点の環境条件を再整理した結果は表 6 に示すとおりである。

環境条件を多く満たす場所は、準備書と同様、対象事業実施区域の北東側に位置する河川敷（地点 4）が該当する。

また、地点 9 についても候補地点の上位として考えられるが、行動圏の一部であることは確認されているものの、営巣地から距離が遠く、確認回数は極めて少ないことから候補地としての実現性は下がると考えられる。

表 6 営巣地となる候補地点の環境条件

番号/条件	1	2	3	4	備考
地点 1	○	○	○	○	—
地点 2	×	△	○	×	アズマネザサが繁茂しており、除草、伐根が必要となる。人が利用する場所に近接している。
地点 3	×	△	○	×	下層草本が繁茂しており、除草、伐根が必要となる。人が利用する場所に近接している。
地点 4	○	<u>△</u>	○	×	休日等にサバイバルゲームの利用者が活動する。 <u>7月の増水時に水没した。</u>
地点 5	×	○	×	△	河川堤防沿いで見晴らしが良い。樹林環境ではない。
地点 8	×	△	×	△	人為的影響が大きく、営巣地から離隔が大きい。
地点 9	○	○	×	△	樹林地の面積が狭く、営巣地から離隔が大きい。
地点 10	○	<u>△</u>	×	△	営巣地から離隔が大きい。 <u>オフロード仕様の車両、単車の利用者が見られる。7月の増水時に水没した。</u>
地点 11	○	×	△	○	<u>6、7月の増水時に水没した。</u>
地点 12	○	<u>△</u>	△	△	営巣地から離隔がやや大きい。 <u>オフロード仕様の車両、単車の利用者が見られる。7月の増水時に水没した。</u>

注 1) 下線部は準備書からの修正箇所を示す

注 2) ○：条件に合致する、△：条件に完全に合致はしない、×：条件に合致しない

注 3) 条件 1：下層植生が疎であること。

条件 2：土壌は、巣穴を掘ることが可能な砂・土質であり、安定していること。

条件 3：行動圏内であり、事業実施区域から近い場所であること。

条件 4：人の出入りがあっても、多くはないこと。

### 3 新たに確認された鳥類及び昆虫類

猛禽類及びホンドキツネの追加調査において、新たに鳥類（8種：うち重要種は4種）及び昆虫類（1種：うち重要種は1種）が確認された。

確認状況及び重要種に対する予測結果は、以下に示すとおりである。

#### (1) 鳥類

##### ①調査結果

猛禽類の追加調査で新たに確認された鳥類は、表7に示すとおりである。

なお、確認位置はいずれも木曽川上空や伊木山付近等であり、事業実施区域外であった。

表7 鳥類追加確認種

No.	目名	科名	種名	学名	事業実施区域		調査時期				その他調査	猛禽類調査	
					内	外	春季	繁殖期	夏季	秋季			冬季
1	ペリカン目	サギ科	チュウサギ	<i>Egretta intermedia intermedia</i>		●							●
2	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		●							●
3	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>		●							●
4		シギ科	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>		●							●
5	キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ	<i>Dendrocopos major hondoensis</i>		●							●
6	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		●							●
7		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>		●							●
8		ヒタキ科	イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i>		●							●

注1) 種名及び配列は「日本鳥類目録第7版」（平成24年 日本鳥学会）に従った。

注2) その他調査とは、別項目の調査時に確認されたものである。

##### ②予測結果

新たに確認された重要種に対する影響予測の結果は、表8に示すとおりである。

表8 確認された重要種の生息状況及び予測結果（鳥類）

種名	生息状況	予測結果
ツツドリ サンショウクイ	猛禽類調査時に、伊木山付近で確認された。	これらはいずれも樹林地や山地等に生息する種である。 事業により主要な生息環境は改変されず、工事にあたっては低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努め、仮設沈砂地等の設置による濁水対策を実施することから、事業による生息環境への影響は極めて小さいと予測する。また、施設の存在による生息地の減少、分断はないと予測する。
チュウサギ イカルチドリ	猛禽類調査時に、岐阜県側の上空や木曽川で確認された。	これらはいずれも水田や湿地等の水辺に生息し、水生生物等を捕食する。 事業により主要な生息環境は改変されず、工事にあたっては低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努め、仮設沈砂地等の設置による濁水対策を実施することから、事業による生息環境への影響はないと予測する。また、施設の存在による生息地の減少、分断はないと予測する。

(2) 昆虫類

① 調査結果

ホンドキツネの追加調査で新たに確認された昆虫類は、表 9 に示すとおりである。  
 なお、確認位置は河川敷の水際であり、事業実施区域外であった。

表 9 昆虫類追加確認種

No.	目名	科名	種名	学名	事業実施区域		調査時期				その他調査	猛禽類調査	
					内	外	春季	繁殖期	夏季	秋季			冬季
1	トンボ目	モノサシトンボ科	ゲンバイトンボ	<i>Platycnemis fliacea</i>		●						●	

注 1) 種名は以下の出典を参考とした。  
 「新訂原色昆虫大圖鑑」(平成 20 年 北陸館)  
 注 2) その他調査とは、別項目の調査時に確認されたものである。

② 予測結果

ゲンバイトンボに対する本事業への影響予測の結果は、表 10 に示すとおりである。

表 10 確認された重要種の生息状況及び予測結果 (昆虫類)

種名	生息状況	予測結果
ゲンバイトンボ	ゲンバイトンボは河川敷の水際で確認された。	ゲンバイトンボは水際で流れが緩やかな場所を好み、事業により主要な生息環境は改変されないことから、掘削、盛土等の土工による生息環境への影響はないと予測する。